

キャッシュレス決済の特徴と使い方
VIC 夏季講習会資料（2020年8月9日）

目次

1 キャッシュレス決済の種類と特徴

- (1) キャッシュレス決済の種類
- (2) 支払い方法
- (3) 決済時期
- (4) メリットとデメリット
- (5) マイナポイント事業

2 電子マネーの管理方法

- (1)「カードリーダー」アプリの操作
- (2) 電子マネー管理用アプリ

3 Apple Pay の使い方

- (1) 登録できるカード
- (2) 使用できる店舗
- (3) 設定
- (4) 支払いをする
- (5) まとめ

4 QRコード決済の使い方

4-1 PayPay の使い方

- (1)特徴
- (2)使える店舗
- (3)登録・設定
- (4)支払いをする
- (5)チャージ・残高

4-2 さまざまなQRコード決済

Line Pay、楽天 Pay、d払い、au Pay

4-3 まとめ

1 キャッシュレス決済の種類と特徴

キャッシュレス決済には、多くの種類があり、それぞれ特徴があります。ここでは、キャッシュレス決済についてさまざまな観点から整理していますので、自分の利用方法に適したものを選択するために利用ください。

Apple Pay と QR コード決済については、次節で使い方や操作方法について具体的に述べます。

(1) キャッシュレス決済の種類

□ クレジットカード

- ・クレジットカードは後払いで、支払った後一ヶ月、または二ヶ月後に登録された銀行口座から引き落とされます。リボ払いという方法もありますが、多額の手数料を請求されますので、注意が必要です。
- ・クレジット会社ごとに、アプリや Web で利用金額の管理ができます。
- ・信用取引なので審査があります。年会費が必要なクレジットもあります。
- ・多くの店舗で使用できますが、利用できない店舗もあります。

□ デビットカード

- ・国際ブランド(Visa, MasterCard, JCB など)が付いた銀行 ATM カードのことで、デビットカードで支払うと同時に銀行口座から引き落とされます。預金額以上に利用できないので、お金の使いすぎの防止に役立ちます。
- ・利用毎に利用した旨のメール通知があるので、不正使用を知ることができます。
- ・クレジットカードが利用できる店舗のほとんどで利用できます。

□ 電子マネー

-プリペイド型の電子マネーが多く、事前にチャージしておきます。チャージは、指定された ATM 端末のほか、アプリや Web でもできる場合が多いです。

-種類

- ・交通系：ICOCA, PASMO, Suica など
- ・流通系：WAON, Nanaco, 楽天 Edy
- ・クレジット系：クレジットカードに交通系または流通系の電子マネーを搭載していません。

□ スマホ決済

直接スマホを用いて支払いを行うことをスマホ決済といい、次の2種類があります。

-Apple pay, Google Pay

- ・Apple Pay とは、iPhone の Wallet アプリにクレジットカードなどを登録しておき、支払い時に iPhone をかざすだけで簡単に決済ができるサービスです。
- ・クレジットカードなどを鞆や財布から取り出す必要もなく、また、クレジットカード

を店員さんに渡す必要もないので、セキュリティに優れています。

- ・ iD, Quick Pay が使える店舗で、Apple Pay が使用できます。

-QR コード決済

- ・ PayPay や Line Pay、楽天 Pay などがこの種の決済です。それぞれのアプリを操作することによって、支払いやチャージを行います。多くの種類の QR コード決済がありますが、チャージの方法、登録できる銀行やクレジットカードなどはそれぞれの決済会社によって異なります。
- ・ 店舗側が表示する QR コードを自分のスマートフォンのカメラで読み取ったり(ユーザスキャン方式)、自分のスマートフォンに表示されたバーコードをお店の人に読み取ってもらって(ストアスキャン方式) 代金の支払いをします。
- ・ ユーザスキャン方式では金額を入力する手間がかかります。ユーザスキャン方式しかできない店舗もありますので、注意が必要です。
- ・ 使える店舗が限定されます。

□オンライン決済

- ・ インターネットを通じて決済処理を行う方法です。日本では主にクレジットカード決済が使われます。ネット通販などでは、ほとんどの場合 QR コード決済や Apple Pay が使えないのが現状です。

(2) 支払い方法

□非接触型決済

- ・ カードなどをリーダーにタッチするだけでよく、便利な決済方法です。
- ・ 電子マネー、Apple Pay, 非接触決済対応のクレジットカードなどがこの方式です。
- ・ 店員さんにカードなどを渡さなくてよいので、安全な方式です。
- ・ Pin コードなどの入力の必要がなく、簡単に決済ができる反面、紛失や不正利用に注意が必要です。

□QR コード決済

- ・ 非接触型決済の一種ですが、QR コードを使うという点で電子マネーなどと異なります。

□接触型(カード挿入型)決済

- ・ 通常のクレジットカードやデビットカードがこの方式です。
- ・ クレジットカードなどを自分で挿入する場合と店員さんにカードを渡し、店員さんが操作する場合があります。暗証番号として4桁の PIN コードを入力する場合、サインする場合などがあります。

(3) 決済時期

□プリペイ型

- ・電子マネーで支払う場合や QR コード決済の残高で支払う場合がこれに当たります。
- ・前もって電子マネーや QR コード決済アプリにチャージしておき、支払いと同時に、残高から代金が引き去られます。

□決済同時型

- ・デビットカードによる支払いや QR コード決済の銀行払い（PayPay のみ）がこれにあたります。
- ・決済と同時に登録している銀行口座から引き下ろされます。

□ポストペイ型

- ・クレジットカードでの支払いや、QR コードと Apple Pay 決済のクレジット払いがこれに当たります。

(4) メリットとデメリット

□メリット

- ・現金を持ち歩かなくてもよく、また、お金を数える必要がなく、支払いがスムーズにできます。
- ・ポイント付与や還元があります。カード会社や決済会社によるポイント付与だけでなく、政府による還元事業やマイナポイント事業による還元やポイントを得ることができます。
- ・アプリ等により利用明細を確認できます。

□デメリット

- ・必要以上にお金を使い無駄遣いをしやすくなります。
- ・使えない店舗があるので、使える店舗を事前に確認しておくことが大切です。
- ・キャッシュレス決済には、さまざまな不正利用の恐れがあることを認識し、それへの対処を行うことが大切です。例えば、クレジットカードやデビットカードでは、利用毎に利用額などをメールで知らせてくれる利用通知機能があり、アプリなどでこの機能をセットしておけば、不正使用を早期に知ることができます。

また、被害にあった場合に補償する制度もあり、補償制度付きのクレジットカードや QR コード決済を選ぶことも大切です。

-クレジットカードや iPhone の盗難

-スキミング：カードなどの磁気情報を読み取ることで情報を盗む手法

-フィッシング詐欺：インターネット上の正規のサービスになりすまして、利用者からログイン情報などを盗む手法

(5) マイナポイント事業

マイナポイント事業は、キャッシュレスの利用によって、利用額の 25%、最大 5,000 ポイントが付与されるというものです。この機会にマイナンバーカードを取得し、マイナポイントに登録されてはいかがでしょうか。

- ・対象決済：電子マネー、プリペイカード、QR コード、クレジットカード、デビットカード。ただし、これらの決済のうち特定のものの一つを選択します。
- ・手続き時期：2020 年 7 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日
- ・手続き：マイナンバーカードの取得：スマホで申請可 → キャッシュレス決済（一つだけ選択）との紐付け：スマホでも申込可 → キャッシュレスの利用
- ・ポイント付与期間：2020 年 9 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日

2 電子マネーの管理方法

(1)「カードリーダー」アプリの操作

- ・「カードリーダー」アプリのインストール。
- ・読み取り方法
アプリを立ち上げる → スキャンボタンをダブルタップ → カードをかざす → ピンと音の反応があり、自動で読み取り
なお、カードは iPhone の背面上部に押し当てるのがコツです。
- ・利用明細の確認
スキャンをして読み取った画面では、利用日時が新しいもの順に利用明細が記載されています。また、アプリ下部の履歴ボタンを押すことによっても、利用明細を読むことができます。

(2) 電子マネー管理用アプリ

- ・決済会社ごとに、電子マネー管理の単体アプリ、クレジットカードと電子マネーを一緒に管理するアプリなどがあります。このアプリを用いて、利用明細の確認やチャージを行うことができます。

3 Apple Pay の使い方

(1) 登録できるカード

- ・ほとんどのクレジットカードと Suica、一部のデビットカードが登録できます。
- ・Apple Pay に登録すると、QuickPay または iD のナンバーが付与され、電子マネーとして使用できます。QuickPay, iD はクレジットカードが関連づけされたポストペイ型の電子マネーのことで、サインや PIN コード（4桁の暗唱番号）の入力が不要となります。

(2) 使用できる店舗

iD, QuicPay 加盟店（電子マネーが使える店舗はほとんどが加盟店）

コンビニ、家電量販店、ドラッグストア、スーパー（対応していない店舗が多い）

(3) 設定

Apple Pay では、Touch ID（または、Face ID）を使用しないと、スムーズな支払いができません。

①指紋認証の設定

「設定」 -> 「TouchID とパスコード」 -> 「指紋の追加」

-> 「指でタッチ」の読み上げ -> 指をホームボタンに当てて離す。数回繰り返す。

-> 「グリップを調整」の読み上げ -> 指の境界部（周辺部）をボタンに当てる。

-> 「完了」の読み上げ -> 「続ける」ボタン

②TouchID とパスコードの設定

「設定」 -> 「TouchID とパスコード」 -> 「iPhone のロック解除」：オン

「Apple Pay」：オン

③Wallet と Apple Pay の設定

「設定」 -> 「Wallet と Apple Pay」 -> 「ホームボタンをダブルクリック」：オン

④クレジットカード等の登録

「設定」 -> 「Wallet と Apple Pay」 -> 「カードの追加」 -> 「続ける」 -> 「クレジット／プリペイカード」

-> スキャン：カードを上部に置き iPhone を上に引き上げる -> カード番号の読み取り

-> セキュリティコードの入力

-> 利用規約に同意 → カードの追加中 → 「iD」「追加されました」

-> カード認証 -> 認証方法を選択 -> 「次へ」

-> 認証コードを入力 -> 「認証されました」

-> 「メインカードに設定するかどうか」

⑤Suica の登録

Apple Pay では、Suica はすでに登録してあり、登録しているクレジットカードからチャージするだけで利用が可能になります。

・チャージの方法

「設定」 -> 「Wallet と Apple Pay」 -> 「カードの追加」 -> 「続ける」 -> 「Suica」

-> チャージ金額を入力 -> 規約に同意 -> クレジットカードでチャージ

・エクスプレスクードの設定

エクスプレスクードに Suica を指定すると、認証をしなくても決済ができますので、ロックがかかった状態でも支払いを完了することができます。

「設定」 -> 「Wallet と Apple Pay」 -> 「エクスプレスカード」 -> Suica を選択

⑤ QuickPay、または、iD の確認

「設定」 -> 「Wallet と Apple Pay」 -> カードを選択 -> デバイスアカウント番号まで進む -> 国際ブランドの読み上げ -> 電子マネーの種類の読み上げ (QuickPay xxxx または iD xxxx)

⑥メインカードの設定

「設定」 -> 「Wallet と Apple Pay」 -> 「メインカード」 -> 選択する

(4)支払いをする

① 店舗で利用する場合

指紋認証の場合について説明します。なお、顔認証の場合は手続きが少し異なります。

ステップ1 店員さんに「iD または QuickPay, Suica で支払います」と言う。

ステップ2 親指（認証した指）でホームボタンを素早く2回押す

Wallet が立ち上がり、「リーダーにかざしてください」の読み上げ

なお、ホームボタン2回押しの後、少しの間親指を添えておくことがコツです。数回練習すれば、慣れます。

ステップ3 iPhone の裏の上部をリーダーにかざす

「クピーン」の電子音が出れば、Apple Pay が認識されたことを示し、さらにそのままかざし、「クイックペイ」または「タントン (iD の場合)」とリーダーから電子音が出れば、支払い完了。

支払い方法については次の YouTube も参考にしてください。

<https://youtu.be/Gsl3kvcGgM8?t=48>

ステップ2は、ホームボタンを2回押さず、単にホームボタンに指を当ててリーダーにかさずという方法もありますが、ホームボタン2回押しの方が指紋認証やカードの確認ができるので、よいでしょう。

②駅の自動改札機やバスで利用する場合

自動改札機やバスの料金読み取り機は、現在、Apple Pay では Suica 以外のカードは利用できません。

エクスプレスがオンになっていれば、iPhone がロック状態でも本体をかざすだけで、「ピッピ」と読み取り完了です。扱い方も Suica カードと同じです。

(5) まとめ

- ・支払いが非常に簡単にできることから、紛失、盗難時の不正利用が心配されますので、指紋認証や2ファクター認証をオンにしておくことが大切です。また、iPad や Windows の「iPhone を探す」機能によって「紛失モード」にするなどの対処法も検討しておきましょう。
- ・Wallet アプリは、ほとんどの項目を読み上げますので、青眼者の助けなしで操作できます。カード登録はカメラでカードを読み取りますが、カード裏面のセキュリティコード（3桁の数字）は事前に知っておかないといけません。また、そのカードが QuickPay か iD なのかも支払い前に確認することが大切です。
- ・店舗で iPhone をリーダーにかざす時、リーダーの位置の確認やかざし方については数回トライして、コツをつかんでください。
- ・Apple Pay を初めて利用する人を対象にキャンペーンが時々あります。「Apple Pay」「キャンペーン」をキーワードで検索すれば、調べることができます。例えば、セディナカードでは1,000円のキャッシュバックがあるようです。

4 QRコード決済の使い方

4-1 PayPay の使い方

(1)特徴

支払いは残高だけでなく、クレジットカード(ヤフーカードのみ)からもでき、チャージはセブン銀行 ATM と銀行口座からチャージを行います。基本的に、アプリを操作するときは画面ロックが解除された状態で行うので、アップルペイよりも初心者には優しいのではないのでしょうか。

(2)使える店舗

- ・コンビニ、ドラッグストア、家電量販店はほとんど使用できる。
- ・スーパーやイオン系は使用不可。フレスタ、スパークは使用可。
- ・ネットショップはほとんど使用できない。

(3)登録・設定

①登録

- ・初めて登録する場合は新規登録を行う

-PayPay アプリを起動 -> 携帯電話番号を入力 -> パスワードを入力

-> SMS で認証コードを受信 -> 受信した4桁の認証コードを入力 -> 登録完了

一度登録するとログインした状態になります。ただし、しばらく使用していない時や、アプリのアップデートなどがあつた際には、再度認証作業が必要な場合があります。

②支払い方法の設定

支払い方法は、残高（残っている現金のこと）払いとクレジットカード払いの2つの方法があります。は、セブンイレブンの ATM、また、アプリに登録した銀行口座およびクレジットカード（ヤフーカードのみ）から残高へのチャージができます。

必要に応じてアプリに銀行口座やクレジットカードを登録することができます。

・チャージ用銀行口座の登録

-PayPay ホーム画面 -> 「支払い管理」ボタン-> 「銀行口座登録」ボタン

-> 登録する銀行を選択 -> 支店名、口座番号、口座名義を入力

-> 暗唱番号またはワンタイムパスワード等の入力 ->完了

なお、金融機関によって認証方法は異なり、画像認証などを求められる場合もあります。お勧めは、ゆうちょ銀行です。広島銀行は、画像認証をしなければなりません。

・クレジットカードの登録

-PayPay ホーム画面 -> 「その他」ボタン-> 「カード追加」ボタン

-> カメラでカード番号の自動読み取り（iPhone を近づけて引き上げる）

-> 有効期限、セキュリティコード（カード裏面の3桁の数字）の入力 -> 完了

なお、クレジットの登録では、ボタン類は読み上げますが、有効期限とセキュリティコードの入力編集フィールドがわかりにくいです。

(4)支払いをする

①ストアスキャン方式

まず、レジで店員さんに「PayPay で支払います」と伝えます。

-PayPay ホーム画面下部の「支払う」ボタン -> バーコード表示がされる、店員にバーコードを提示 -> 端末機が「ペイペイ」と発する：支払い完了

なお、支払い方法が複数ある場合や残高については、バーコード表示画面で事前に確認しておきます。

支払い方法を変更する場合、支払い方法の手前の「ボタン」をタップし、支払い方法選択画面から選びます。

②ユーザスキャン方式

-PayPay ホーム画面下部の「支払う」ボタン -> 「スキャン支払い」ボタン

-> カメラを店舗が提示した QR コードに合わせる -> 金額を入力する

なお、QR コードをユーザ自身がスキャンしなければいけないので、少しコツが必要でしょう。また、この方式では金額を入力する手間がかかります。

ユーザスキャン方式しか利用できない店舗もあるので、注意が必要です。

(5)チャージ・残高

①チャージの方法

- ・銀行口座などによるチャージ

-PayPay ホーム画面の「チャージ」ボタン → チャージ金額の入力 → 「チャージする」ボタン → チャージ完了

なお、チャージ金額でプリセットされているのは最低 3,000 円からなので、それより低い金額では、手入力しなければなりません。手入力した場合は、チャージボタンの場所が変わってしまうので注意が必要です。

- ・セブン銀行 ATM によるチャージ

セブン銀行 ATM の画面に表示されている「スマートホンでチャージ」ボタンから行います。タッチパネルの操作のため、見える人のサポートが必要です。

②残高の利用明細・内訳の確認

- ・利用明細の確認

-PayPay ホーム画面 → 「残高」ボタン → 残高画面

チャージや利用の明細が新しいものから順に記載されています。

- ・内訳の確認

-PayPay ホーム画面 → 「残高」ボタン → 「内訳」ボタン

残金には 4 種類の残高あり、それぞれの金額を確認することができます。特に、「PayPay ボーナスイイト」は有効期間があるので、注意が必要です。

「PayPay マネー」「PayPay マネーライト」はチャージをした残高ですが、前者は銀行に出金ができます。「PayPay ボーナスイイト」「PayPay ボーナスイイト」はキャンペーンで進呈された残高で、後者は有効期間があります。

4-2 さまざまな QR コード決済

- ・ Line Pay
- ・ 楽天 Pay
- ・ d 払い
- ・ au Pay

4-3 まとめ

- ・アクセシビリティの問題

PayPay アプリでは、「ボタン」としか読み上げないボタンがいくつかある、また、前の画面に戻る「戻る」ボタンがないなど、アクセシビリティが十分に配慮されているとはいえません。すべての機能を使いこなすには、慣れやボタンの読み上げ用のカスタムラベル

を作成するなどの工夫が必要です。

- ・セキュリティの問題

QRコード決済のセキュリティは、比較的安全とされています。ストアスキャン方式で提示するバーコードを他人に撮影されたとしても、そのバーコードの有効時間は数10秒なので、不正利用しにくいと思われます。しかし、PayPayアプリの起動時の認証がないため、紛失、盗難の対策として、ロック解除のTouchID認証や2ファクター認証の設定をすることが重要です。